

会 議 録

会議の名称	令和4年度那珂川市環境審議会(第2回)		
開催日時	令和5年1月16日(月) 15:30~17:00	開催場所	保健センター健康増進室
出席者	<p>1. 委員 朝廣委員、調委員、熊谷委員、中島委員、岩城委員、原口委員、比嘉委員、井上委員、川崎委員、池田委員 ※草場委員は都合により欠席</p> <p>2. 市(事務局) 春崎環境課長、江藤生活環境担当係長、高崎ごみ減量推進担当係長、岩崎</p> <p>3. その他 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所(コンサルタント) 2人 傍聴者なし</p>		
公開区分	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 ・ <input type="checkbox"/> 一部開示 ・ <input type="checkbox"/> 非開示		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 開会(会長挨拶)</p> <p><議事></p> <p>2. 枯れ葉剤(2・4・5-T)について <事務局が「資料1 WEB特集記事抜粋」より説明></p> <p>会 長：事務局からの説明に質問はあるか。 委 員：重量はどのくらいあるのか。 事 務 局：担当課に確認し回答する。 会 長：過去に漏出した事故はあるのか。 事 務 局：漏れ出た話は今のところ聞いていない。 会 長：そうしたことも把握しておいてほしい。</p> <p>委 員：福岡市が実施している、五ヶ山ダムの上流域も含めた水質調査で得たデータを、那珂川市も適宜も手に入れているのか。 事 務 局：確認ができていないため、報告する。 会 長：適宜思い当たることがあれば、連絡頂きたい。</p> <p>3. 那珂川市再生可能エネルギー導入戦略について <事務局が「資料2 那珂川市再生可能エネルギー導入戦略(案)を説明></p>			

- 会 長：質問のある人は挙手でお願いします。
- 委 員：太陽光発電による電気について、九電の買い取り価格はかつて1キロワット48円だったが、現在7円と7分の1に落ちている。48円当時でもペイせずに、環境問題に敏感な人たちが負担してでも太陽光発電を導入したと思う。しかし、今の買い取り価格だと、自己負担が非常に重いため、太陽光発電の導入が伸びるのか危惧している。どう考えているのか。
- 事 務 局：PPA事業で、売電せずに家庭で消費する事業が進んでいる。そういった形を中心にしていくと普及は進むとみており、実行計画はその取り組みを推進していく考えである。
- 委 員：それは蓄電池のことか。
- 事 務 局：夜間分などについては、将来的には蓄電池の導入を見据えながら、基本的にはPPA事業で自家消費型の発電を考えている。
- 委 員：昼間に発電した電力を蓄電池にためておいて使うものとは違うのか。
- 事 務 局：夜間は発電しないため、夜間分の消費を全て自家発電で賄う場合は蓄電池を活用しなければならない。蓄電池がなければ夜間分については、電力会社から買う形になる。日中使う電力を自家発電分で賄うだけでも、コスト面の負担が軽減される。売電ではなく自家消費を中心にすることで家庭内のメリットが出てくるため促進が図られると思う。全てを賄う場合は蓄電池が必要だが、蓄電池の価格は高く直ちには普及しないだろう。こうした取り組みが全国的に普及し、蓄電池のコストダウンにつながることも期待し、PPA利用を中心に進めたい。
- 会 長：PPA事業は計画書に書かれているのか。
- 事 務 局：実行計画の中に記載する。
- 委 員：今朝、団地を広報車が回っていたが、節電か節水に関するものか。
- 事 務 局：確認できていないが、節水と思う。
- 会 長：28ページに太陽光だけでなく地熱、風力などの種類を示したポテンシャルマップを新たに作り、掲載していただいた。バイオマスも入っているのか。
- 事 務 局：バイオマスは発電の面で厳しい。家庭での活用も考えられるが、量的、効果的には少ないため、そういったものが含まれるという形を出している。
- 会 長：省エネの具体的な進め方は、既存として書かれていることを強化することになるのか。市として、新たな省エネ法を導入する具体的な考えはあるか。

事務局：省エネの重点施策について、目新しく、全国に先駆けたものはないが、実行計画で触れている。

会長：庁内に本部を設けるのか。

事務局：既に設置している。

委員：風力発電の予定はないのか。

事務局：基本的に風力はないと捉えている。風力発電はポテンシャルはあるものの、問題点も多い。市内への設置に関してはまず山林が考えられ、森林開発が必要なことや山間部でなければ騒音問題もあり、市の状況からなじまないと判断している。

4. 那珂川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

<事務局が「資料3 那珂川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）」を説明>

委員：39 ページにある省エネ対策推進について、市民の取り組みで省エネ効果の高い高効率機器購入の推奨は、行政主導の印象である。高効率機器を購入・設置する際、省エネ基準 100%以上を選ばなければ市の補助対象にならないということか。具体的に機器を設置し、市の業者を使うと得になるということで良い取り組みと思う。春日市など近隣に比べて那珂川市の補助率が高いというが、可能になった理由を説明してほしい。国の補助金との兼ね合いで期間が限定されているようだが、この点も説明してほしい。

事務局：財源問題から国の交付金の活用メニューがあること、また今後、ゼロカーボンシティ宣言をして取り組む中で、電気代の高騰で苦しい家計を支援しながら、結果的に省エネにつながっていくこと、この2つの大義名分が立つということで注力し実現した。とはいえ、財源の面で継続は厳しく、補助金には限りがある。補助金がなくても買い換え時に機器を選ぶなど、意識的に日常に取り入れることが大切と思っている。

委員：自宅のガス給湯器を省エネルギーラベルがあるものに取り替えると、業者の説明では使用量を節約できるそうである。自宅の削減量は分かるが、市全体として効果をフォローしなくていいのか。

事務局：市民の省エネ行動によるエネルギー削減量を把握するのは難しい。他の自治体からの情報では、市の電力量は把握が可能と聞いている。今年、来年の状況が確認できれば取り組みで抑えられた規模が分かるが、ガスについては情報がなく、削減量をつかむことは難しいと思っている。

委員：49年前にエネルギー危機があったが、その世代はわずかしかない。今では、ノーカーボンといっても反応が鈍い。切羽詰まらなないと危機感を感じないのかと思った。49年前ごろには町のネオンが消え、福岡市は断水もあった。そういう時代を生きてきて、水や電気の貴重さを肌身で感じた。

会長：当時、海水の淡水化の導入もあった。

委員：福岡市・海の中道に海水淡水化施設を造り、1日5万トンを造水した。現在は断水の状況がないため、クローズアップされる機会がないが、危機に備えてという形だろうか。水をつくるには相当な費用を要する。川やダムから出すほうが費用ははるかに安い。

委員：一人一人が努力しないと未来はないと思う。

会長：環境行動を促す動機付けをどう進めていくかが大切だと思う。それに関する施策がきちんと入っているかどうかをチェックしていただくといいと思う。

委員：市民に分かりやすくすれば、行動に移りやすいと思う。

委員：実行計画の内容は素晴らしいが、国内外での成功事例はあるかお聞きしたい。水は雨水を使ったり、出る物は肥料化するなど、排出物をゼロにする、かつてのゼロエミッションを庁舎に導入するなど、具体的に見えるものがあればいいが、計画からはイメージしにくい。太陽のエネルギーが電気に変えられるということは、地球を温めていたエネルギーが電気が変わってしまう影響を検討している話を聞いたことがない。

大きくいえば、審議会は何を審議し、委員はどのような責任を負うのかが分からない。市の考えがあれば教えてほしい。

事務局：国内外の成功例について、ジャパン総研はご存じか。

コンサルタント：国も再生可能エネルギーに取り組む地域をつくっていかうと考え、全国で100カ所の脱炭素先行地域を選定し、ゼロカーボンに取り組む町をモデルにする動きが出てきた。現在、第2回まで採択を終えている。公共施設では佐賀県小城市があり、庁内のエネルギーを再エネで賄うなどの事例は幾つかある。町全体で取り組む例は、動きが出てきたばかりである。

会長：高知県梶原町は、外からエネルギーを買わない方針で域内循環を行っている。奥深い山間地で、風力発電により年間2,000万円を生み出し、そのお金で太陽光発電と森林のバイオマス発電に投資している。バイオマス発電は赤字だが、地域でエネルギーを満たしている。

委員：那珂川市ではその手法ではなく、市の中でゼロエミッションとして考える。

会長：54ページにある地域内エネルギーマネジメントを実践することはあり得るかもしれないが、市のトップが大きな方針、戦略を立

てなければ動きは見つからない。

委員：みやま市では、市が電力会社をつくって取り組んでいるのではないか。

会長：いろいろなタイプがあると思う。個性、考えに応じて選択・実施する必要がある。先進事例から学ぶことはあるが、那珂川市がやるべきかどうかは別の問題である。市は今回、戦略や計画などを出したので、意見を出してもらえればと思う。

委員：市が創設した省エネ家電製品の「買換え促進補助金」の制度はいいと思うが、そういう機器を買うことができるのは経済的にゆとりがある層である。貧困層は補助があっても自己負担があっても買おうにも買えない。そうすると、こうした手法が環境問題とは別に、市政として正しいのかどうか疑問がある。今回の審議を終えた後、考えてほしい。

事務局：制度の財源は、新型コロナ関連の経済対策としての国交付金を活用している。コロナ関係の補助金は多く、特別定額給付金から始まり、非課税世帯への給付などが続いてきている。その一環として、交付金を活用したのが今回の制度である。コロナで経済的に厳しい状況が続く、電力価格の高騰で追い打ちをかけられた家計負担の軽減が趣旨の第一にあった。それまで非課税世帯への給付が中心だったが、課税世帯に対しては補助金があまりなかった事情を踏まえ、このような取り組みに至ったことも理解してほしい。この制度が独立して出てきたものではない。

委員：ごみの処理方法を分かりやすく知らせることが、市民が環境問題を考える機会になると思う。家庭ごみの場合、生ごみの水切りはしているが、凍結剤など、物によっては捨てる方に迷う。市のごみ処理に燃料が多く必要になるのではないかと考える。そのようなことを市民に分かりやすく伝達してほしい。

会長：43 ページの ZEH の話について、建て替え・改修も難しく、既存の住宅をどう効率化するかというアイデアを広報していただきたい。

45 ページの太陽光発電の PPA に関しては、自宅に設置するのではなく業者から引くことができるので、その選択肢も検討してほしい。太陽光発電とソーラーカーポートの写真が掲載されているが、豪雨対策に関してはアウトである。風力発電が進まない背景には地域災害のことが挙げられ、その辺との兼ね合いも注意するような文言は付けておく必要がある。

46 ページのソーラーシェアリングも多くの課題がある。「問題点も併せて検討する」との言葉を付け加えたほうがいい。

49 ページの交通関係には、リモートワークの推進が入ってくる。

例えば、市庁舎に通わなくても仕事ができる拠点を那珂川市にあれば、福岡市に通わなくて済み、かなり貢献できるのではないかと。そして、那珂川市に住む人も増える。そういう施策との連携も、まちづくりとしても大きなポイントだと思う。

60 ページの山林について、チップボイラーを強化すればいいと思う。農業について不案内だが、糸島市などではイチゴ栽培でボイラー使用が多く、燃料費が高額になっている。那珂川市や農家がチップボイラーを導入し温水を活用すれば、燃料費を削減できて農業振興にもつながる。福祉施設でも温水をつくるために薪ボイラーやチップボイラーに切り替えている所もある。産業部門でも強化し、パイロットモデルを幾つかつくれば、啓発になる。大きなシステムではなく、小さなシステムを取り入れて、みんなができることを進めることがいいと思う。

5. 那珂川市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について

<事務局が「資料4 那珂川市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（案）」を説明>

会 長：事務事業編について意見、質問はあるか。

事 務 局：委員から質問があった庁舎の取り組みについて、18 ページの「庁舎・施設管理者の取り組み」で記したが、太陽光発電設備をどの程度設置できるのかなどを調べるため、「再生可能エネルギー導入可能性調査」を実施し、具体的な計画を進める。

会 長：新しく何かを建てる予定はあるのか。

事 務 局：公共施設で予定されているものは、総合運動公園の設置である。

委 員：図書館を改築されているため、改築前と後で電気消費量の比較ができるのではないかと。

事 務 局：既に設計が固まっており、今の段階では対応が厳しい。市内部でどこまでできるか検討中である。

委 員：大きな変更はできないと思うが、電球を LED にするなどしてはどうか。

事 務 局：確認していないが、それは前提として入っていると思う。

委 員：市総合体育館を建て替えるのか。

事 務 局：市民体育館は現状のままである。解体する予定はない。

会 長：電気の比率を高めた場合、災害時はどうかと思う。

事 務 局：今のところ、具体的にどうするか結論には至っていない。災害に強い体制づくりにも考慮しながら進めていかなければならないと考えている。

6. 那珂川市一般廃棄物処理基本計画について

<事務局が「資料5 一般廃棄物処理基本計画（素案）にかかる施設等へのアンケート結果」を説明>

会 長：基本計画のアンケート結果について質問、意見等はどうか。

委 員：審議会は残り何回開かれるのか。

事 務 局：今のところは残り1回と考えている。次回はほぼ完成になり、結果報告になると思う。

会 長：委員が持ち帰って意見があれば、いつまでに提出すればいいか。

事 務 局：1月31日までをお願いしたい。

地球温暖化対策実行計画、また事務事業編は一部の施設の電力消費量推定ができていないところもあるため、ある程度完成した状態で各委員に郵送したい。意見を記入する用紙も同封し、1月末までに提出していただければ、計画の修正・改善を考えている。

会 長：そういう対応をお願いします。お手数だが、各委員にはよろしくをお願いします。

会 長：本日予定した全ての議事は終了した。

以上